

ナダ・イ・ナダ

稲宮 健一

プーチンと習近平の会話から漏れ伝わった記事に、最近臓器移植など内臓の一部を取り換えられるようになったので、寿命はまだ延びる、人生一五〇年も夢でないとお互いの長寿を喜んだと伝えられた。

私の運転免許証に臓器移植の意思表示が書かれているが、臓器移植はあくまで、内臓の欠陥でどうしても、他人の臓器が必要な人に受け渡しする趣旨だ。山中先生の細胞膜の移植も、他人の細胞移植を受け付けない人や、また、パーキンソン病など、神経が麻痺した人への移植で、今までの医学では達しえなかった悩める人への「おすくい」手段だ。ただ一つ、細胞や、細胞膜を移植できない臓器がある。それは脳である。脳の中に若返りの細胞を植え付けことはできない。

そのため、独裁国家では外部から情報統制を行い、真実、虚偽に係わらず、自分の都合の良いことは声高に、都合の悪いことは没にし、それを拡散すると罰則を受ける。神をも知らぬ暴挙、いや、神など存在しないと言う国だ。ロシアの神はKGBの仲間同士でぐるぐるになっている。

我々は中学の初期に新陳代謝という言葉を知った。人から構成される社会も新陳代謝があつて、古い垢を落とし、新鮮な空気、考え方を取り込み社会は進歩して行く。切磋琢磨という言葉があるが、互い考えをぶつけ合うが、独裁国では磨くのでなく、切磋琢磨を闇に落とす手段か。

米国はトランプになってから、独裁者に支配されるたように思われたが、それでも、ケネディー・センターのおのが名前は削られた、また、タリフマンの効果は表に出なくなつた。

小さいころ、孫悟空の奇想天外な話が面白く、よく読んだ。ラジオでも徳川夢声と七尾玲子の朗読が面白くよく聞いた。孫悟空は筋斗雲に載って暴れまくつたので、頭にリング（きんこじ）を嵌めさせた、三蔵法師の呪術で懲らしめの締め付けを行ったという物語であつた。唐の国の故事のように現代に緊箍児（きんこじ）が出現しないのか？。